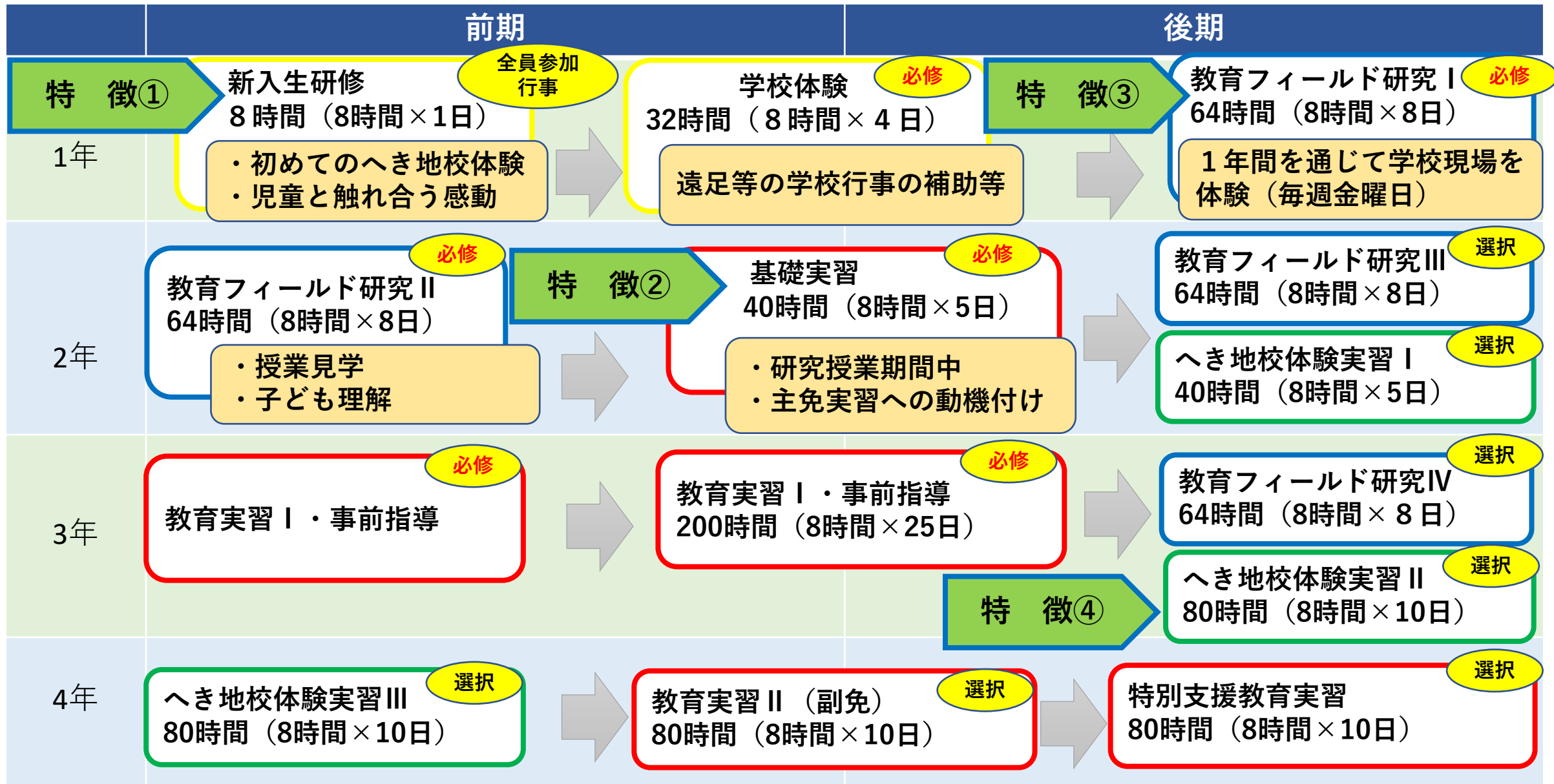


# 体験・実践系科目を活用した教員養成 (北海道教育大学釧路校)

北海道教育大学釧路校キャンパス長 浅利 祐一

# 北海道教育大学釧路校における学校現場体験実習



※上記のほか、特別活動を3年間で120時間、ボランティア活動を4年間で150時間程度実施。

# 釧路校における学校経験実習

## — 周辺の体験からステップアップしていく実習体系 —

周辺の  
参加

新入生研修

- はじめて「先生」として児童・生徒と触れ合う **感動体験**

学校体験

- 遠足・体力測定など学校行事の補助



教育フィールド研究Ⅰ

- 図書整理・環境整備など教室外での教師の仕事をサポート

教育フィールド研究Ⅱ

- 授業観察を通して子ども理解を深める

基礎実習（1週間）

- 先輩の研究授業に参加することによって翌年の主免実習に対するモチベーションを高める

主免実習（5週間）

- いよいよ **教壇実習**！！



中心的  
参加

# 特徴 ①

## 新入生研修：子どもと触れ合う感動体験

- ◆ ほとんどの学生にとって初めてのへき地校体験  
→ 都市部の大規模校との違いに衝撃
- ◆ はじめての「先生」を体験  
→ 子供と触れ合う喜び・感動を初体験  
→ **教職意欲を強く自覚**
- ◆ 複式授業を初参観  
→ **教師のスキルの高さに畏敬と感嘆**
- ◆ **地域学習**の実態に驚き  
→ 単に教科書を学習するだけではなく、学校全体が地域の特質である酪農や漁業の学習に取り組んでいることに対する驚き  
→ 学校経営・カリキュラムマネジメントの重要性



### 参加学生のコメント

新入生研修で初めて複式授業を見ましたが、教師のすごさがわかりました。1人で2学年分を教えるのは大変だと思います。教師の皆さんは工夫をしながら、一生懸命取り組んでいました。そうした児童生徒に対して真摯に向き合っていく態度を見習って、私も頑張っていきたいです。

へき地校では、山や海などの自然を生かした学習をすることができ、町の学校では経験することのできないことが経験でき、とてもよい教育環境であると感じました。また、教員は小規模校であるほど大規模校ではしなくていいようなこともしなくてはいけなくて、大変であるけれど、教員としてのスキルをあげることができるという話をきいて、へき地校で教員として働いてみたいという気持ちが大きくなりました。



↑  
へき地校での歓迎セレモニー

## 特徴 ②

# 基礎実習：先輩の研究授業からのフィードバックと主免実習の「体験的な事前指導」

- ◆ 主免実習（3年生・5週間）と基礎実習（2年生・1週間）を**同時に実施**。
- ◆ 先輩の研究授業に対する取組・準備を目の当たりにして翌年の自分の主免実習に対するイメージ・意欲を強く持つことができる。
- ◆ 主免実習生と基礎実習生が一緒になって研究授業の準備に取り組むように指導してくれる学校もある。
- ◆ 実習・研究授業の取り組みにおいて先輩がどのような課題や困難に直面しているのかを共有することができる。



先輩と一緒に研究授業づくりに取り組む様子→



- ◆ 学校現場からの提案。**学校現場と協働**しながら学校体験実習の改善・質の向上に取り組んでいる。
- ◆ 翌年の研究授業で取り組みたい教科や単元について自分なりのイメージを持つなど**意欲向上**に効果がある。
- ◆ 協働的な学びによる研究授業の資質向上。
- ◆ 翌年自分の取り組むべき課題としてフィードバック

主免実習の「体験的な事前指導」としての基礎実習

## 特徴 ③

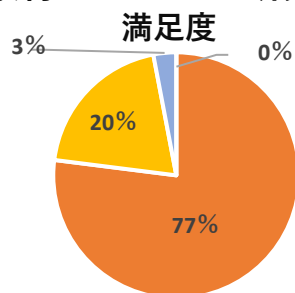
# 教育フィールド研究：1年間の学校の流れを体験する

「学校体験」→「教育フィールド研究Ⅰ」→「教育フィールド研究Ⅱ」

- ◆ 毎週金曜日に学校を訪問することによって**学校現場（行事）の流れ**や学校の特色（取組・学校目標）を学ぶことができる。
- ◆ 授業参観はもちろんのこと、環境整備・運動会の準備等に参加することによって授業以外の教師の役割を学ぶ。
- ◆ 「学校体験」（1年生）と「教育フィールド研究Ⅱ」（2年生）を同時に実施することによって、2年生から1年生にノウハウを継承。→ **リーダーシップの育成。**
- ◆ 1年前期の「学校体験」から3年前期の教育実習まで、**同一の学校での体験実習を実施**することによって**学校現場と大学が協働**しながら教員養成に取り組む。

## R3年度 教育フィールド研究 アンケート結果

### 【教育フィールド研究Ⅰ】

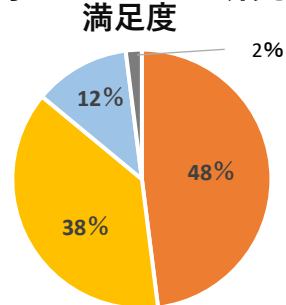


- 満足できるものであった77%
- どちらかという満足できた20%
- どちらかという満足できなかった3%
- 満足できなかった0%



↑  
バスで市内の小・中学校に向かう  
「教育フィールド研究」の出発前の様子

### 【教育フィールド研究Ⅱ】



- 満足できるものであった48%
- どちらかという満足できた38%
- どちらかという満足できなかった12%
- 満足できなかった2%

→「教育フィールド研究Ⅱ」の満足度が「教育フィールド研究Ⅰ」より低いのは、当初8日間を予定していた実習がコロナの影響により、3日間になったことによるもの。



↑  
個別指導の様子



## 1年生のコメント

1年生から実際に現場に入らせていただき、授業はもちろんですが、授業以外の教員の仕事にも触れさせていただいたことで、教員になるにあたって必要な能力を具体的に知ることができました。実際に授業を教師の立場から見ることによって、授業の工夫をたくさん見つけることができました。このような貴重な体験によって得られたものはとても大きいです。この経験をこれからも生かしていきたいです。

大学の講義で学んだことが実際の学校現場ではこのように活かされるんだということを学んだり、大学の講義の中で先生がいていたことはこういったことだったのだと感じられたり、大学の授業と教育フィールド研究の学びをつなげられたと思う。また、実際に小学校教諭の方々から、様々な話を聞くことができてすごく充実した教育フィールド研究だったと思う。



## 2年生のコメント

大学で学んだ理論を小学校での実践に繋げ、新たな気付きや学びがあったため大変満足のいく活動でした。1人の教師としての将来を想像し、ここで自分だったらという考えを持つことで、大学の講義で学んだ理論を活かし、ここにはこんな理論があるためこの指導をしているなど、現場の考えを根拠とともに理解することができたように思います。

昨年とは異なり、今年は昨年得た経験と課題をもとに行動できたと思います。また、今年は教育法の授業が多く、各学年の授業に入った時、あの授業で見たやり方だと考えたり、先生がやっていた意図はどういうことだったのかと考え直したりすることができました。

## 学校現場からのコメント

大学からの指導もあり、とても意欲的に取り組んでいました。特に2年生のフィールドの活動に向かう姿勢が素晴らしかったです。また、毎年、大学の先生が活動の様子を見に来てくださっています。その際には、学生の様子や活動内容についても交流し、本校のフィールド研究の活動に生かすことができています。

学校リーダーを中心に声を掛けあいながら、作業をすすめていました。2年生は、1年生が入ってきたためにリーダーシップを発揮する場面が随所にみられました。

## 特徴 ④

# へき地校体験実習：地域に住み、地域を実感する実習

- へき地校体験実習Ⅰ（1週間）
- へき地校体験実習Ⅱ・Ⅲ（2週間）
- ◆地域の教員住宅や宿泊施設に1～2週間宿泊しながら実習
- ◆地域に住み**地域を実感**しながら、へき地校・複式授業の実践体験
- ◆実習生は、寝食を共にすることによって、お互いに励ましあい、刺激し合いながら実習を体験する→**協働による学びと絆**



↑へき地校体験実習での授業の様子

### 参加学生のコメント

大変充実してたくさんの学びを得ることができた。大学でいくら理論を勉強していても実践と結びつくとは限らず、今自分は何をすべきか考えて行動しなくてはいけないので、その練習の積み重ねが大切であると思った。

思っていた以上に一週間はあっという間だった。最初は早く帰りたいと思っていたが、最後は子どもたちと離れるのが本当に寂しかった。へき地でしかできない体験（料理、魚のさばき方、漁に行くなど）を本当にたくさんさせていただき、学校だけではない学びをすることができた。苦労もあったが、同じ実習先の仲間2人と協力し乗り越えることができた。この経験を教育実習に活かしたいと思う。

大学の講義では学べない、地域とのつながりや子どもと先生の温かい雰囲気を感じながらの授業作りを学ぶことができました。大学では複式授業の形式を学びますが、教育現場では、児童一人一人の個性を尊重した指導がなされていました。先生方のそれぞれの指導方法が、どのような意図で指導がなされているのかを考えながら、そして実際に聞いたりしながら学ぶことができました。